

## 【第1号議案】令和2年度事業報告

---


### 1 事業の成果

令和2年度は、「コミュニティサポート事業」として地域住民と登米市に移住してきた震災被災者との交流を図る取り組み（震災後の被災者と支援者をつなぐ絆再生事業、食が創るコミュニティ事業、ドキュメンタリー映画「先祖になる」上映サポートなど）や、地域住民とのネットワークづくりを進めながら女性や子どもの暮らしやすい社会づくりを進める「女性・子ども支援事業」、コワーキングスペース SOU の利用拡充とサービス内容の充実を図りながら実際にアクションにつながる「就業・起業支援事業」を実施した。登米市の魅力を首都圏に発信するための「シティプロモーション事業」では、インターネットを通じて広く宮城県北の仕事を紹介した。また、とめ市民活動プラザも指定管理として4年目を迎え、より一層各コミュニティの地域づくりを支援する体制をとった。

昨年度末からの新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、当初は事業の延期や中止を余儀なくされ、日常活動も大きく制限された。しかしながら施設利用者やイベント時の感染予防対策を徹底的に講じ、公共施設が閉館する中でも少人数でのイベントの開催など民間施設ならではの施設運営を試みた。さらに、イベントをオンラインに切り替えて、被災者と全国の支援者の絆を途切れることなく、より強固なものとする事が出来た。

令和2年度の経験を活かし、次年度ではオンラインでのイベント開催、ネットを活用した情報発信など新たなコンテンツを増やし、収束の見えない新型コロナウイルスの感染拡大の波に、With コロナでの事業展開を考え、新年度の計画を進めていきたい。

## 2 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

事業(1)	時を超え、場所を超え、被災者・被災地を繋ぐ絆再生事業	実施日時	令和2年8月1日～ 令和3年3月20日														
実施場所	登米市、気仙沼市、南三陸町	従事者数	3人														
受益対象者	参加希望者85人	事業分類	コミュニティサポート事業														
事業目的	東日本大震災以降、復興に向かって事業を展開してきた実績を活かし、新たな困難を抱えた県内各地のキーパーソンを繋ぎ、それぞれの困難を乗り越え、私たちが未だかつて経験をしたことのない新型コロナウイルスをも乗り越えるような支えあい、励ましあう絆力を再構築することを目的とする。																
事業内容	<p><b>1. IT人材づくり（SNS活用人材育成講座）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被災者（地）と支援者（地）をSNS上で繋ぐことができる人材を育成した。</li> </ul> <p>Twitter、Facebook、Instagramのアカウント取得から特徴・特性までを学び、受講生各人の興味関心、得意分野、発信したい内容を整理し、どのSNSをメインに使うかという運用の方法までを指導した。フォロー講座として毎月1回、Zoom講座を実施した。 （全24講座 参加者延べ154名）</p> <div style="text-align: right;">  <p>SNS講座の様子</p> </div> <p><b>2. オンライン上に被災者同士をつなぎ、交流を深めるためのプラットフォームづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被災地支援に取り組んでいるキーパーソンを動画共有サイトYouTubeで紹介した。</li> </ul> <p>弊団体ホームページが誘導する絆プラットフォームにおいてオンライン動画を配信した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">レポーター</th> <th style="text-align: center;">動画内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登米市東和町在住の編んだもんだら きっかけの母</td> <td>震災復興支援商品エコたわし「編んだもんだら」生まれた理由</td> </tr> <tr> <td>フォトグラファー 福田さん</td> <td>フォトグラファーがみた震災復興の絆</td> </tr> <tr> <td>仙台から登米市へ嫁いだ西條さん</td> <td>オンラインで繋がる絆</td> </tr> <tr> <td>地域再生のスペシャリスト 井上さん</td> <td>地域再生は地域の美味しい食材から</td> </tr> <tr> <td>北海道しめっちネット 鈴木さん</td> <td>北海道と被災地を繋ぐ毛糸たち</td> </tr> <tr> <td>東京からボランティアに来た佐々木さん</td> <td>編んだもんだらを支援する人々</td> </tr> </tbody> </table>			レポーター	動画内容	登米市東和町在住の編んだもんだら きっかけの母	震災復興支援商品エコたわし「編んだもんだら」生まれた理由	フォトグラファー 福田さん	フォトグラファーがみた震災復興の絆	仙台から登米市へ嫁いだ西條さん	オンラインで繋がる絆	地域再生のスペシャリスト 井上さん	地域再生は地域の美味しい食材から	北海道しめっちネット 鈴木さん	北海道と被災地を繋ぐ毛糸たち	東京からボランティアに来た佐々木さん	編んだもんだらを支援する人々
レポーター	動画内容																
登米市東和町在住の編んだもんだら きっかけの母	震災復興支援商品エコたわし「編んだもんだら」生まれた理由																
フォトグラファー 福田さん	フォトグラファーがみた震災復興の絆																
仙台から登米市へ嫁いだ西條さん	オンラインで繋がる絆																
地域再生のスペシャリスト 井上さん	地域再生は地域の美味しい食材から																
北海道しめっちネット 鈴木さん	北海道と被災地を繋ぐ毛糸たち																
東京からボランティアに来た佐々木さん	編んだもんだらを支援する人々																

・R2.10/24「まちとひとつつなぐ絆イベント・ととと 2020」

震災をきっかけに生まれたログストーブの活用法を紹介し、電気やガスが使えなくなっても煮炊きができ、暖がとれることを体験し、それを全国の被災者支援に取り組む仲間たちと共有するオンライン交流を開催した。

・R3.3/20「ととと 2021～めかぶの片思い～」

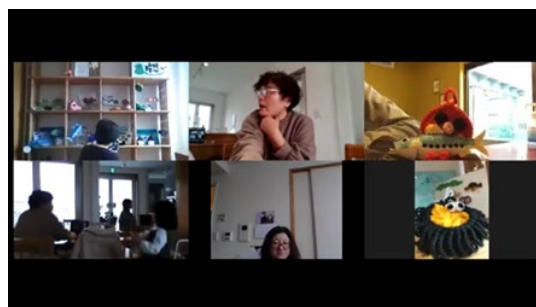
被災者の手仕事として生まれたエコたわし「編んだもんだら」と震災当時気仙沼で被災し、現在は封筒で魚を作っている封筒魚作家とのコラボ展示会を開催し、オンラインで全国の視聴者と繋いだ。



オンラインイベント「ととと 2020」の様子



震災をきっかけに生まれたログストーブを紹介



3. 紙媒体での情報発信

・インターネットを活用していない人たちのために、県北地域対象の無料情報誌「アルク」に被災者支援に関わった仲間たちの記事を掲載、配布した。

4. コンテナビジョンでの募集PR

幣団体入居の建物壁面を使った大型ビジョンで、SNS講座の告知ととめっこぐらしレポーターを募集する動画を放映した。

広告内容	放映期間	放送回数/日	総放映回数
SNS講座告知	8月14日～9月末	30回	1,350回
とめっこぐらしレポーター募集	10月2日～3月末	30回	5,400回

<b>成 果</b>	<p>直接的な効果（アウトプット）</p> <p>SNS 講座を開催したことで、見方や使い方がわからなかった Twitter や Facebook などで情報を発信したり得ることができるようになり、登米市在住の被災者がふるさと南三陸にいる友人知人や遠方に住む子供や孫たちの情報を知ることができるようになった。</p> <p>震災から 10 年の間に作られた絆は県内をはじめ全国に点在していたが、復興と共に取り戻した日常で、繋がりが希薄になっていたところもあった。今回の事業でコロナ禍においても絆を繋ぎなおし、これからも情報交換や連携をとっていく手法として新たなイベントの形になった。</p> <p>波及的効果（アウトカム）</p> <p>IT 人材育成づくりによって情報発信の仕方を学んだ被災者たちが、現在の自分たちの「今」を発信でき、全国の支援者たちと繋がるできるようになった。それによってオンラインでの復興イベントや連携が可能となり、より幅の広い仲間づくりができるようになった。</p> <p>※令和 2 年度宮城県 NPO 等の絆力を活かした震災復興支援事業</p>
------------	--

<b>事業 (2)</b>	食が創るコミュニティ形成事業	<b>実施日時</b>	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日
<b>実施場所</b>	とめ女性支援センター	<b>従事者数</b>	2 人
<b>受益対象者</b>	参加希望者 80 人	<b>事業分類</b>	コミュニティサポート事業
<b>事業目的</b>	登米市民の健康寿命は県内でも低い状況にあり、男性の 30 代からの肥満や子どもの肥満が多く、また、脳血管疾患の死亡率が県内でも高く課題となっている。登米市の施策では「減塩」や「野菜をあと 1 皿多くとる」食事を実践しようとする食育の重要性を訴えているが、家庭での浸透はまだ低い。そこで、家庭で簡単にできるレシピや季節に応じた「食べ方」について啓蒙活動を進めるための食育講座を実施した。		
<b>事業内容</b>	季節に応じた「食べ方」「過ごし方」についての講話と実食を毎月実施した。講話は市内で食育健康講座を主宰している方に依頼、毎月の食材も提案してもらった。それをもとに調理担当のスタッフがレシピを考案し、漢方やマクロビオティックを基本に食事を作った。食材は地産地消を意識して、直接地元農家から購入する工夫もした。		
<b>成 果</b>	講話と実食のメニューについては、毎回、管理栄養士の方にチェックしていただいた。漢方やマクロビオティックの考え方を、栄養学の観点から検証する試みが、参加者のみなさんの安心感につながったと同時に、講話・実食・栄養のそれぞれの立場から、登米市民の健康食育活動の在り方を考える良いきっかけともなった。（※講話担当の方はご自宅でもサロンを開設しさらに地元密着での活動を進めるきっかけにもなった。）参加者はリピーターさんがお友達を連れてくるようになり確実に食育活動の輪が広がった。		

	<p>※キューピーみらいたまご財団助成プログラム A「特定課題3年継続助成」を活用。 『健康寿命延伸のための食育活動 とめコミュニティ・キッチン 「みんな食堂」 プロジェクト』として活動した。</p>
--	--

事業(3)	震災からの復興支援事業	実施日時	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日
実施場所	登米市, 陸前高田市, 全国	従事者数	2人
受益対象者	参加希望者 300人	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	震災から10年。東日本大震災発災直後から陸前高田に入り、復興のドキュメンタリー映画『先祖になる』を制作した池谷薫監督が陸前高田で上映会を開催するにあたって、チケットのオンライン販売や、上映会当日のトークショーのオンライン配信などをサポートし、発災当初から今もなお被災地支援を継続している弊団体の取組みを全国に広く知ってもらう。		
事業内容	活動資金を確保するためのクラウドファンディングを実施(1月27日～2月25日)した。予定金額をクリアし、映画上映技師や、オンライン配信スタッフの的人件費等を確保できた。また、映画のチケット(オンライン上映、現地上映)のオンラインショップを開設し、販売サポートにあたった。3月13日の現地上映会&トークショーにおいても、陸前高田に赴きサポートにあたった。		
成果と今後の課題	震災当時、登米市が津波被害を受けた沿岸地域のみなさんの受け入れや、物資の支援、ボランティア団体の拠点になっていたことなどを、クラウドファンディングを通して、初めて知ったという声が登米市内のみならず、全国から聞かれた。 オンラインショップの運営方法や、イベントのネット配信のノウハウを構築することができた。		

事業(4)	とめ女性支援センター運営事業	実施日時	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日
実施場所	とめ女性支援センター他	従事者数	3人
受益対象者	一般市民、不特定多数	事業分類	女性・子ども支援事業
事業目的	各種イベント、セミナー、プログラム等を実施し、登米市や南三陸町を中心とする女性支援に携わる団体・個人のネットワークを形成し、利用者の増加を図る。 また、世代を超えて協力しあえる関係性を築く学びの場づくりを行う。		
事業内容	<p>1. コミュニティカフェ・うれしやTOME 本店サポート(来店者 延べ480人)</p> <p>登米女性支援センター内のコミュニティカフェ・うれしやTOME 本店を運営する登米市米山の(株)かみのファームに対する各種サポートを実施した。</p>		

	<p><b>2. できたことノート実践講座・シェア会 (受講者 40名)</b></p> <p>前年度、岡山県に加藤せい子さん、横浜市の林亮太郎さんを講師に「できたことノート実践講座」を6回開催したのをきっかけに、受講生達が振り返りの会（シェア会）を立ち上げた。</p> <p>シェア会はとめ女性支援センターを会場に毎月1回開催し、講師二名はオンラインで参加。受講生の振り返りについてアドバイスを実施した。</p> <p><b>3. 登米市女性会議アドバイザー</b></p> <p>センター長が登米市主催の女性会議のアドバイザーとして話し合いの支援を行った。市役所で開催される会議のほかに、自主的にミーティングをしたいという提案があったため、支援センターを会場にミーティングを2回開催し、子育て支援課が主催する子ども祭りでスライムづくりワークショップを実施した。</p> <p>その後、登米市女性会議が「第二期登米市子ども・子育て支援事業計画（案）」に対して意見を提出する際のサポートを行った。</p> <p><b>4. にじいろキラリ交流会 (8月24日(土))</b></p> <p>沖縄・愛媛・横浜の女性3人のグループ「にじいろキラリ」が来登。登米市米山のかのファームで地元子どもたちと畑体験を通して交流をしたのち、うれしやTOME本店で、編んだもんだらの作り手さんやコバコ作家さんたちと交流を図った。</p>
<p><b>成 果</b></p>	<p>コミュニティカフェうれしや TOME 本店は、(株)かのファームの鹿野昭子さんが一人で運営できるようになった。コロナウイルスの影響もあり、あまり広く宣伝することは控えたが、そんな中でもお客様が定着してきた。飲食にとどまらず、学びの場をも実施することで、様々な方がとめ女性支援センターの存在を知るきっかけとなった。</p>


<p><b>事業(5)</b></p>	<p>放課後子ども居場所・見守り事業</p>	<p><b>実施日時</b></p>	<p>令和2年4月1日～ 令和3年3月31日</p>
<p><b>実施場所</b></p>	<p>コンテナおおあみ</p>	<p><b>従事者数</b></p>	<p>3人</p>
<p><b>受益対象者</b></p>	<p>地元子ども達10人程度及びその保護者</p>	<p><b>事業分類</b></p>	<p>女性・子ども支援事業</p>
<p><b>事業目的</b></p>	<p>放課後、ひとりで過ごす時間が多い子どもたちが安心して過ごせる、子ども達の育ちを地域で支える居場所を作る。</p>		
<p><b>事業内容</b></p>	<p>地域の児童民生委員などの有志からなるビックネットと協力し、子ども達が放課後過ごせる場所として、毎週月、水、金の午後3時半から5時半にコンテナおおあみの1階のミーティングルームを開放した。ビックネットの皆さんには子供たちの見守りとして協力いただいた。</p>		

成 果	新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止する期間もあったが、感染予防対策を万全にして、継続実施した。ビッグネットのみなさんの尽力で大網地域の3つの町内会のみなさんも見守りの協力をしてくださるようになった。そのため、子どもたちとも顔見知りになり、登下校での挨拶もよく見られるようになった。
-----	---

事業(6)	コワーキングスペース運営サポート	実施日時	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日
実施場所	コンテナおおあみ	従事者数	3人
受益対象者	施設入居者6名、施設来訪者延べ200名	事業分類	就業起業支援事業
事業目的	コワーキングスペースSOUの利用拡充とサービス内容の充実を図る。		
事業内容	<p>・コワーキングスペースSOU月例会の実施</p> <p>毎月1回、コワーキング入居者を中心に、広く登米市民に声掛けをして、ブレストミーティングを開催した。</p> <p>継続して話し合うことで、地域資源を活用した取り組み（草木染等）や、自分の事業の見直し（農泊）の必要性に気づき、コワーキング入居者へアドバイスを求める事案も生まれた。</p>		
成 果	コワーキング入居者の得意分野（IT、マーケティング、販売促進）と、ブレストで浮き彫りになった課題解決の方法が結びつき、新しい仕事づくりに寄与した。		

事業(7)	創業チャレンジャー支援事業	実施日時	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日
実施場所	とめ女性支援センター他	従事者数	3人
受益対象者	登米市内50名、仙台市内10名 レンタルボックス利用者24名	事業分類	就業起業支援事業
事業目的	起業希望者に対する支援を実施し、地域経済の持続的発展を図る。		
事業内容	<p><b>1. ログストーブ製作・販売支援</b></p> <p>仙台市のアウトドア愛好家グループ「樅の木」のオリジナル商品「ログストーブ」を登米市内で製作するとともに、直販およびネット販売のサポートにあたった。</p> <p>製作はワーカーズコープ登米（鱒淵）のみなさんが担当してくださることになり、製作の要所所で樅の木さんの指導を受けて、品質の向上及び安定を図った。</p> <p><b>2. コバコBOX支援事業</b></p> <p>とめ女性支援センターhug に設置された小型の販売展示レンタルBOXに出店する女性</p>		

	手作り作家に対し、イベントやワークショップ開催のPR、販路や商品のブラッシュアップ等の支援を実施した。本年度は女性支援センターの1室を開放し、作家活動の活用してもらえる場所を提供した。
成 果	<p>ログストーププロジェクトでは、登米市内の山林の状況を知ることもでき、林業の大切さを登米市民のみなさんと考えるきっかけともなった。</p> <p>コバコプロジェクトでは、手仕事による身の回り品の販売支援を通じて、東北の暮らしの知恵を発信するとともに被災地での女性の仕事づくりを支援することができた。</p>

事業(8)	移住・定住推進連携事業	実施日時	令和2年6月17日～ 令和3年3月15日
実施場所	登米市、栗原市、大崎市	従事者数	2人
受益対象者	登米市、栗原市、大崎市	事業分類	シティプロモーション事業
事業目的	宮城県北地域への移住・定住を促進するため、登米市・栗原市・大崎市の求人情報を中心とするウェブサイト「みやぎのしごと。」を構築し、移住・定住・仕事関連の情報発信を図ることで、移住希望者が移住しやすい環境を整える。		
事業内容	<p><b>1. 移住者希望者向けの仕事情報サイト「みやぎのしごと。」の制作と情報発信</b></p> <p>登米市、栗原市、大崎市で求人募集している中小・零細企業に、移住者に対して求人募集するWebサイトへの掲載を促し、企業の紹介と共に、その地域の魅力や、雇用内容や条件等についても丁寧に聞き取りし、移住者への情報発信に繋げていく。</p> <p>●サイト構築及び管理運営 一般社団法人 BANSOU 移住定住ウェブサイト「みやぎのしごと。」 URL <a href="https://miyaginoshigoto.com/">https://miyaginoshigoto.com/</a></p>  <p>【求人一覧】 株式会社 サステイナライフ森の家 <a href="https://miyaginoshigoto.com/sustainablelife/">https://miyaginoshigoto.com/sustainablelife/</a> やまと在宅診療所登米 <a href="https://miyaginoshigoto.com/yamatoclinic/">https://miyaginoshigoto.com/yamatoclinic/</a></p>		





## 2. 移住者希望者向けの地域の暮らしの情報発信

ウェブサイト「みやぎのしごと。」のコラムページ「暮らしのコラム」にて、登米市の情報や暮らしの様子などを登米市に縁のある方に執筆していただき、情報を発信する。

「暮らしのコラム」執筆者 10名

氏名	所在地	記事アップ日
氏家 和寛	登米市	令和2年9月13日
氏家 和寛	登米市	令和2年10月6日
菅原 志恵	登米市	令和2年10月9日
福田 沙織	仙台市	令和2年11月10日
西條 加奈恵	登米市	令和2年12月8日
井上 弘司	長野県	令和3年1月8日
鈴木 玲	北海道	令和3年2月9日
氏家 和寛	登米市	令和3年2月12日
氏家 和寛	登米市	令和3年2月19日
佐々木 かおる	東京都	令和3年2月25日

## 3. 情報紙「みやぎのしごと。」通信の制作と発行

【紙面体裁】A3 両面カラー コート紙

【デザイン印刷】シーアーツ株式会社

【発行部数】「みやぎのしごと。通信 Vol.1」 令和2年12月21日 1,000部

「みやぎのしごと。通信 Vol.2」 令和3年2月26日 1,000部

ウェブサイト「みやぎのしごと。」より記事をピックアップし、紙版の「みやぎのしごと。」を制作した。発行した情報紙は弊団体の関係する全国各地の取引先へ配布した。

## 4. 情報交流会議

当初は登米市、栗原市、大崎市の3カ所を回って定期会議を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止で3密を避けるために登米市迫町のアルテラスおおあみの

	<p>多目的室で開催した。</p> <p>7月から令和3年2月の期間に毎月1回のペースで開催し合計43名の出席があった。 (※12月は登米市でも新型コロナウイルスの感染が拡大したため中止した。)</p> <p>会議には移住経験者をはじめ、地域の活性化や移住定住の拠点となる仕事をしている方々に来ていただいた。会議の中ではそれぞれの活動報告や今後もまちづくり、移住定住のための情報発信、コロナ禍における移住定住の問題点などを話し合った。</p>
成 果	<p>移住希望者が移住先を探すに当たって、一番気がかりなのはその土地の暮らしと仕事であることから、宮城県北の優良な企業を取材し、求人情報を発信した。</p> <p>しかし宮城県内でも夏以降よりコロナ感染者が後を絶たず、予定していた企業から取材を断られたり、一度は取材に応じてもらえても最終的には求人自体を断られる場合が多く、記事の掲載が困難だった。そもそも、企業が移住者を採用することに対する慎重さも伺え、今後、移住促進を図る際の課題が浮き彫りとなった。</p> <p>その一方で暮らしのコラムでは、登米市の良さを伝える記事を、登米市や宮城県とゆかりのある方々に執筆していただき、地元では気づけなかった視点から地域の様子を伝えることが出来た。</p> <p>※令和2年度宮城県移住定住促進事業・移住定住ウェブサイト「みやぎのしごと。」の制作及び情報発信事業</p>

事業(9)	グリーンツーリズム実践事業	実施日時	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日
実施場所	登米市米山町かのファーム	従事者数	3人
受益対象者	登米市民及び仙台市民、南三陸町民	事業分類	シティプロモーション事業
事業目的	農業体験を通し、登米市民と他地域の人々が交流を楽しみながら、一年を通じて実践できる都市と農村の交流のモデル事例を構築する。		
事業内容	<p>・ばけつ畑部プロジェクト</p> <p>登米市米山町かのファームの畑をお借りし土づくりから種まき、肥料や水播きなど様々な野菜の育て方や1つ1つの作業の意味を学びながら、収穫、調理まで、10人程度の参加者のもとに、毎月第4土曜日の定例部活として実施した。</p>		
成 果	<p>四季折々の畑の様子を通し、食卓を支えている農業について理解を深めることができた。参加者同士の交流が生まれたり、飲食店経営の方が参加し地元野菜を使ったメニューの開発をするなどの広がりが見られた。また、かのファームさんは六次化に取り組んでいて、納豆や豆腐を市内工場で生産、自社販売をしている。参加者の購買意欲につなげることが出来た。</p>		

事業(10)	とめ市民活動プラザ運営事業	実施日時	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日
実施場所	とめ市民活動プラザ	従事者数	4人
受益対象者	NPO・市民活動団体・コミュニティ組織	事業分類	中間支援事業
事業目的	協働によるまちづくりを推進するため登米市が設置している「とめ市民活動プラザ」の運営を受託し、市民活動に関する情報提供や各種相談、多様な主体と協働した仕組みづくりや人材育成などを実施する。		
事業内容	<p><b>1. 市民活動に関する情報の収集、提供及び発信業務</b></p> <p>(1) 機関紙「ぶらっと・とめ」の発行・配布（年4回 6月、9月、12月、3月）</p> <p>(2) コミュニティFMによる情報の発信（まるっと!とめ Like は21回放送）</p> <p>(3) 県内外のNPO・市民活動団体等の活動情報の収集及び提供</p> <p>(4) NPO・市民活動団体等のデータベース管理</p> <p>(5) 地域課題の解決を図る取り組みの情報収集及び提供</p> <p>(6) 窓口スタッフによる各種相談対応、情報提供、案内</p> <p><b>2. NPO・市民活動団体・コミュニティ組織等への支援業務</b></p> <p>(1) ホームページ等による情報発信</p> <p>(2) オンライン会議ツール「Zoom」導入資料と説明動画の提供 (1回開催、情報案内件数29件、資料要望数2件)</p> <p>(3) 無料専門相談会の開催（4回開催、相談件数5件）</p> <p>(4) 地域づくり計画の実践支援及び各種相談業務</p> <p>(5) NPO・市民活動団体等のイベント協力や取材</p> <p>(6) NPO・市民活動団体等と行政との連携、協働の推進</p> <p>(7) 市民活動支援に関する調査、研究、支援</p> <p><b>3. 人づくり・人材育成支援業務</b></p> <p>(1) 人材育成講座の開催（6回開催、参加人数88名）</p> <p>(2) 市民向け講座の開催（4回開催、参加人数75名）</p> <p>(3) 市との連携事業「地域づくり事業アンケート」（277件）</p> <p>(4) スタッフ研修（各種研修及び会議の参加29件）</p> <p><b>4. 施設の運営に関する業務</b></p> <p>(1) 施設案内及び利用者への対応（交流・会議スペースの利用者620人）</p> <p>(2) 施設及び設備（印刷機等）の利用への対応</p> <p>(3) 利用者状況資料の作成・報告（月次・年次）</p> <p>(4) 施設設備の管理に関すること</p> <p>(5) 職員体制の計画・労務管理</p>		